

平成 29 年度

事業所名 : あお空グループホーム山田

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393000120		
法人名	(有)介護施設あお空		
事業所名	あお空グループホーム山田		
所在地	岩手県下閉伊郡山田町山田第19地割51番地1		
自己評価作成日	平成 30 年 2 月 12日	評価結果市町村受理日	平成30年4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&j_gyosyoCd=0393000120-00&PrEfCd=03&VersiOnCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成 30年 2 月 26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念に基づき利用者の皆様がその人らしく生活が出来るよう家庭的な雰囲気作りを心掛けています。豊かな自然に囲まれ、温かい時期には近所の関口神社に散歩に出掛けたりドライブに出かけています。近隣の住民の皆様にも気軽に立ち寄り頂き、利用者の皆様と一緒にお茶を飲んだり会話を楽しんでます。毎日午前中にラジオ体操と軽運動を行い身体機能の維持に努めています。食事においては季節の旬の食材提供を心掛け、時節料理や郷土料理、懐かしい手作りおやつを提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、森林や農地に囲まれていて自然環境に恵まれた集落の中心部に位置し、周辺には集会所や消防団分所などがあり、施設は民家に隣接して立地している。神社までの散歩や買い物の途中に地域住民と声を掛け合い、野菜や山菜、海産物など旬の食材の提供を受け、施設開催の敬老会へは住民が参加するなど、日常生活を通じた近所付き合いが進んでいる。また、災害時に一時的な高齢者の受け入れを担っているほか、集会所での体操、食事会にも参加するなど地域に溶け込んだ事業所となっている。運営にあたっては、施設の理念に基づき、利用者の個性を大切に「その人らしい生活」を送るため、家族や利用者の意向に沿いながら、運営推進会議委員の助言、提案や職員の発案による創意工夫を通じ、家庭的な雰囲気の中で利用者へのより良いサービスを提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、事務室、ホールの3か所に理念を掲示しその意味を心に留め全職員で共有している。	施設で定めた理念を掲示し、職員会議や申し送りなどで確認、共有し、家庭的な雰囲気大切に、利用者に寄り添い、方言などを活用した親しみを込めた話しかけなど、リラックスできるようなサービスを提供している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	誕生会や敬老会等の行事の時は町内のボランティア(歌や踊りなど)の方々にお越しいただき披露して頂いている。また近隣の方々もご案内し利用者の皆様と共に観覧する場合もある。	自治会に加入し、各種地域の行事に参加しているほか、ボランティアによる日本舞踊や老人クラブの歌謡受け入や地域住民との近所づきあいを重ね、利用者との触れ合いを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特別に認知症を理解する場を設けている訳ではないが、近隣の方々が訪ねてきた場合は認知症の相談を受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に一度開催しているが、その間の利用者様の生活の様子、利用状況、行事等の報告を行い、それに対し助言を頂いたり意見交換を行っている。	運営推進員から、地域での高齢者の交流会、感染症予防対策などの情報を得ている。介護施設での事件を例に防止対策の助言を得て、凶器として想定される用品の扱いなどの対策を職員に徹底するなど、運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議後や役場訪問時など、地域包括支援センターとの話し合いを持ち、お互い情報交換し合い協力している。地域ケア会議や包括ケア会議にも参加し情報交換している。	町主催の会議や地域ケア会議、認知症セミナーに職員を派遣しているほか、町の専用ボックスからも各種情報を得ている。また、町から備蓄用飲料水を提供されている。要介護更新認定申請など家族の依頼により代行することもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修会を職場内で開催し、意義の共有をしている。防犯上の理由から19:00~5:30までは玄関の施錠をしているが、日中は施錠していない。	転倒予防のため、1名ベッドに柵を設置しているが、最小限としている。ふらつきのある利用者には、ベッドにセンサーを設置している。なお、各種情報を関係資料からとりまとめ、職場での研修会を開催し、虐待の防止への周知を図っている。2階の廊下に見守り用のカメラを設置し、利用者の安全を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関しても職場内において研修会を開催し、虐待の内容を理解し防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新たに自立支援の制度を利用されている利用者様が入所され、制度の知識を徐々に理解している。また関係機関とも連絡を取り合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所される前に契約書や重要事項説明書の内容について十分な説明をし理解、納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々利用者が本音を言える雰囲気を作り、ご家族が来所した際にも意見や要望を伺い反映させている。面会時、または必要時には電話にて入居者の状況を伝え、意見等を聞いている。	家族の来所時や診療の際に家族の意向を聴き取り、遠方者には電話等で照会している。利用者の要望等は、日々の生活の中で話や仕草の中から把握し、外出、買い物、外食(ラーメン)などの支援をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り時に提案や意見交換する場を設けている。月に一度の職場内研修時にも意見交換を行っている。	毎月の職員会議で話し合うほか、利用者ごとの観察記録への記載、申し送りノートの記入内容などから職員の要望や意見を把握している。ベッドへのセンサーの設置や乾燥期の保湿タオル掛けのほか、感染症予防など職場研修会のテーマの設定などにも生かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は各々に目標を掲げ達成できるよう心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修にはできるだけ参加する様にしていて、参加した際の資料は全従業員に配布しスキルアップに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会沿岸北ブロック主催の会議や研修会に参加しサービス向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の不安な気持ちを受け止め、心に寄り添い良い関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いを理解し、家族の立場になって要望や不安な事などに耳を傾け、話しやすい環境づくりをしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極め、その都度対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昼食を同じ席で食べるなど、同じ目線で相互の存在を支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	随時状況に応じた対応、報告、面会、電話協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで築き上げてきた関係性を、時間をかけて深く知ろうと努力しその関係を極力断ち切らない支援に努めている。利用者様の馴染みの方を直接訪れることもある。	知人や親戚などの訪問のほか、知り合いによる踊りなどのボランティアや神社の夏祭の剣舞のかど付けを受け入れている。馴染みの店での衣類等の買い物、アイスクリームなどの飲食にも出かけるほか、集会所での体操、調理・食事会にも参加している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人1人の性格やレベルなど利用者間の関係を配慮しながら楽しく暮らせる様支援している。ホールでの座席や食席もトラブルがあれば変更するなど柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後もフォローしたり必要に応じ相談を受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の些細な言動にも耳を傾け、把握した情報を職員間で共有し、本人のやりたい事、出来る事を見つけて支援している。	利用者の意向は、日々の生活の中で寄り添い、話しかけて把握し、食事メニュー、入浴時間、近隣へのドライブなどに反映させている。また、日常生活に畑の作業や編み物、歌などの趣味もいかしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人からの聞き取り、把握に務めている。本人が話す昔の事に耳を傾け、なるべくその状況を職員は実現できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の日課の中で出来る事と出来ない事を把握し職員間で情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントとモニタリングを繰り返し介護計画を作成している。本人の会話や行動観察、家族及び関係者からの意見等やカンファレンス等でスタッフからのアイデアも交換し、本人が笑顔で暮らせる様な介護計画作成を心掛けている。	居室担当から利用者の状況を聴き取り、月1回開催の会議で個別のカンファレンスを行っている。医師による投薬、排便コントロールの指示等のほか、家族からは面会時や電話で意向を確認し同意を得ている。介護計画は短期目標期間を3ヵ月、長期目標期間を6ヵ月として作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の各種記録、連絡ノートの活用、申し送り等情報を共有し支援に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じてその都度話し合い柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設でのイベント(誕生会、敬老会等)に、ボランティアの慰問、他施設からの招待、地域での催しへの参加にて、楽しく豊かな暮らしが出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要に応じた内科、皮膚科、眼科、本人や家族が希望する病院、主治医に継続的に受けられるよう支援している。利用者、家族が希望するかかりつけ医を受診している。家族対応の利用者もおり、情報を密に共有している。	かかりつけ医を変更した利用者は1名で、他は以前のかかりつけ医を受診している。多くの利用者は家族の要請により職員が同行しているが、家族による受診のほか、医師の指示により職員と家族が同行する場合もある。受診状況は、その都度家族に報告し、情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特変や気づき、状態変化など常時報告し指示を受け、適切な対応を心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先に出向き、家族を交え情報交換し退院まで安心できるよう努めている。又看護師にも情報提供し利用者の方が安心して過ごせるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	近隣病院の訪問診療の規模縮小にて正直看取りの実現は遠のいている。家族には看取り対応をしていない事を説明している。実際重度化している方もおられるが、通院時等家族の協力を得て対応している。	重度化した場合や看取りは、訪問診療が無くなったことから、現状では対応していない旨、家族に説明している。緊急の場合は、管理者等へ連絡のうえ、医師の指示対応することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生やAEDの使用法の訓練を通じて緊急時対応のスキルアップを図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜想定避難訓練は元より行っていたが、本年度から水害想定避難訓練も行っている。食糧や救急箱などの備蓄も増やしている。	総合、夜間想定訓練を実施している。夜間想定の場合は、2階からの避難方法について、工夫が必要である旨、消防署員から指導を得ている。施設が介護を要する高齢者の一時避難場所ともなっている。備蓄用食材、ガスコンロを整備している。	2階からの避難方法の検討と避難訓練等への地域住民の協力、支援を得るため、運営推進委員会の開催日に訓練を実施するなど、地域住民への広報と参加協力の方法について、検討を進めることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は常に利用者への尊厳を心掛け支援しているが、失言した時はさりげないフォローに努めている。	個人情報、事務室で管理している。施設内の写真掲示について、家族の同意を得て表示している。個人の経験や心情を大切に、言葉づかいなどに配慮しているほか、便失禁などは、利用者の動向を見て、細心の注意を払って対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で、利用者が持つ思いなどなるべく自己決定できるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、昼寝時間、就寝時間など利用者のペースを尊重し、なるべく希望に沿う支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入所前からの美容室、洋品店等での買い物支援など個別に対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下準備や食器拭き等職員と一緒にいき、盛り付けなどにも配慮している。メニューも郷土料理や旬の物を使用し工夫を凝らしている。	朝夕は本部からの冷凍食品を中心に提供しているが、昼食、おやつは手作りで、利用者の手伝いを得て対応している。食材の買出しに利用者が同行するほか、近所からの野菜や山菜、きのこ、知人からの新巻鮭、海産物を提供され、季節ごとに旬のもの生かした食事を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事、水分摂取量を記録し、利用者の状況に応じて食形態の変更も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛け促し、見守りまたは一部介助にて義歯洗浄、口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼夜排泄チェック表を活用し、1日の回数を把握している。排泄から気が逸れている利用者は声掛け誘導し対応している。	排泄チェック表により、排泄パターンを把握し、必要に応じ案内、誘導をし、見守りを主とした排泄の自立を支援している。布パンツ3名、リハビリパンツ6名で、夜間はオムツを使用する方が2名いる。夜間のポータブルトイレ使用は1名いる。医師の指示で下剤を処方している方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分チェック表や野菜を多く取り入れるよう心掛け、日頃からバランスの良い食事に取り組んでいる。ヨーグルトやヤクルトも定期的に提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴予定者には声掛けし入浴を促している。又季節の菖蒲湯やゆず湯、毎回湯花を入れて快適に入浴して頂いている。入浴拒否の方もおられるが、無理な誘導はせず翌日に対応したりしている。	週2回の入浴とし、水曜日を除く日の午後に入浴している。寝たきりの利用者は清拭で対応している。異性介助も特に問題なく、入浴時には昔話や歌を歌うほか、アカコスリの要望にも柔軟に対応し、楽しい入浴としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝は本人のペースで行っている。ほとんどの方が日中はホールで過ごされているが、中には昼寝される方もいてゆったりと過ごされている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容、用法、用量、副作用などすぐに対応できるようにしている。薬の変更があった場合は特に注意している。薬はすべて職員の管理にて対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	軽作業のお願いの声掛け、終了後の感謝の言葉の声掛けに心掛けている。声の掛け方により達成感や喜びを感じられる様つとめている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に極力沿い、ドライブや散歩、買い物や日光浴を行っている。近所の散歩時には近隣の方と路端でおしゃべりやふれ合いを行っている。	天気の良い日は近くの神社まで散歩に出かけ、地域の住民からの声掛けもある。受診時や買い物での友人との会話もある。ドライブでの紅葉見学、道の駅での外食、祭りの海での神輿の見物などに出かけている。家族による正月の自宅訪問、お盆の墓参、昼食などに出かける利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在自分で金銭管理している方はいないが、預り金という形で管理し、外出時には自由に使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも自由に電話できるたいせいをとっている。送られてきた郵便物も本人に手渡す体制をとっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	殆どの方が日中ホールで過ごし、テレビを観たり気の合う者同士が会話をしたり和気あいあいできるよう支援している。ホーム内の気温や湿度にも気を配っている。	施設は2階立てで、1階のロビーには食事用テーブル、ソファーが配置され、窓からの明るい光の中でテレビや民謡の歌唱、紙見芝居など、それぞれ寛いでいる。温度はエアコンで管理され、加湿器のほか、湿ったタオルで保湿し、快適な環境となっている。お雛様の飾りや写真、手づくり作品が展示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本的に自分の場所は決まっているが、利用者から要望があった場合やトラブルがあった場合は変更を検討している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や手紙、色紙、ぬいぐるみ等を配置する事で自分の部屋だと認識出来る事に繋がっている。また、写真や思い出の物を見て昔の事を懐かしそうに話される方もいる。	ベッド、クローゼット、小タンスが配置され、テレビ端子、ナースコール対応(端末2台)となっている。温度はエアコンで管理され、テレビ、衣装ダンス、カガミ、化粧品、家族写真などが持ち込まれ、それぞれの意向に沿った、落ち着いた居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレには誘導札を付け、場所を認識できるようにしている。		